



鮭一本売りが行われた  
第84回 (平成30年11月25日)

めかぶ早食い大会が行われた  
第46回 (平成27年4月26日)

志津川中学校で開催された  
第1回 (平成23年4月29日)

30mの銀ト回巻きに挑戦した  
第26回 (平成25年5月26日)

先着1,000食限定で、蒸し牡蠣・焼きホタテが  
無料で振舞われた第100回 (令和4年5月29日)

タコ神輿で志津川小・中・高の各仮設住宅を  
練り歩いた第61回 (平成28年9月25日)

# 100 回目開催を迎えた南三陸福興市

5月29日(日)、志津川仮設魚市場特設会場にて、第100回記念福興市―大感謝祭―が開催され、たくさんの人で賑わいました。福興市は、東日本大震災から必ずや復興するという事業者の思いに対し、山形県酒田市酒田中通り商店街や岡山県笠岡本通商店街など全国各地の商店街が加盟する「ぼうさい朝市ネットワーク」からの支援を受け、「福を興す市」と銘打った「南三陸福興市」が立ち上げられました。

第1回目の開催は、平成23年4月29、30日。その後、毎月最終日曜日開催(一部、土曜日開催もあり)としていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年2月より延期を余儀なくされてきました。

福興市では、「南三陸の物産を通じた魅力発信と水産業・商工業を中心とした流通の拡大支援」「旬の時の魚介をテーマにした食の提供とメニュー開発」「ステージイベントなどを通じた地域の賑わいづくり」「全国各地とのイベント交流」「イベント企画を通じた地域の人材育成(地元中学生の参加やチャレンジショップなど)」を目的に活動を続けてきました。これまでの来場者数は110万人を超え、南三陸町を代表するイベントの一つとなりました。

今回の100回目は、大感謝祭というテーマのとおり、海の幸の無料振る舞いや、餅や酒、枳などのたくさんのお土産プレゼントが用意され、朝早くから大勢の人が列をつくられていました。

当日の来場者数は、約5,000人となっており、出店数は28店舗。町内事業者はもちろん、「ぼうさい朝市ネットワーク」加盟の山形県酒田市や長野県下諏訪町、岡山県笠岡市・倉敷市などの全国各地から出店があり、場内はたくさんの方の笑顔に溢れました。

開催にあたり、山内正文実行委員長は「100回も続けられることができたのは、全国の商店街の皆さんの支援があったことが一番だ」と思う。1回目2回目の時は、本当に開催していいのだろうか、お客さんが来てくれるのだろうかなどの色々な不安があったけれど、町内の人がたくさん来てくれて、喜ぶ姿が見られたのが本当に嬉しく、それが一番の原動力となった。色々なことをやれば集まる場所も楽しいことできるから、そういったことで少しは皆の支えになれたのかなと思う。100回という区切りはつけるが、今後南三陸町は色々なイベントを企画している。この福興市でできた縁を大事に次につなげていきたい。そして自分たちの次を担う人たちにも、これから活躍してもらおう場をたくさんつくるから、うまくバトンを繋いでいきたい。」と語られていました。

100回目区切りとなる福興市は、これまで南三陸町の復興を牽引してきた一大イベントといっても過言ではなく、「南三陸ここにあり」という思いを全国に発信してくれました。



会場には、第1回~100回までの福興市開催チラシが展示されました



1日で約5,000人の人が来場し、大勢の人でにぎわった第100回



開会式で挨拶を行う山内正文実行委員長

広報担当からのお知らせ

この広報7月号は、6月21日現在の情報です。新型コロナウイルスの感染拡大の状況により、この号でお知らせしているイベントなどが中止や延期となる可能性があります。その際は、町HP、防災行政無線やフェイスブックなどでお知らせしますので、ご了承ください。



## 学習サポート用教材DVDを寄贈いただきました



5月17日(火)公益財団法人ライオンズ日本財団様より、南三陸町内の小中学校、高等学校の計8校への「教材DVD」が寄贈されました。この教材DVDは、年齢に沿った内容となっており、小学校5校へのDVDは、ごみの分別や地球温暖化の仕組みなどの環境配慮の取り組みを紹介する内容、中学校2校と志津川高校へのDVDは、薬物乱用の怖さなどを伝える内容となっています。この教材DVDは、町の教育委員会を通じて各学校に配布され、授業などで活用されます。



## 3年ぶり! プロ野球イースタン・リーグ開催!!



来場者プレゼントをもらう子ども達



始球式を行う菅野滉太さん

6月5日(日)平成の森しおかぜ球場において、当町では3年ぶりとなる「2022プロ野球イースタン・リーグ公式戦 東北楽天ゴールデンイーグルスVS読売ジャイアンツ」が開催されました。楽天2軍戦は、平成18年に南三陸町の誕生記念ということで初開催された後、毎年の様に試合が行われてきましたが、令和元年は雨でノーゲームとなり、令和2、3年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていました。今年も、様々な感染症対策を講じた上での開催となりましたが、天気にも恵まれ、来場者は2,097人とたくさんの方にご来場いただきました。また、会場の飲食販売エリアでは、町内より8店舗の出店があり、来場者は南三陸の海の幸の販売に列をつくられていました。当日は、入谷小学校6年生の山内大也さんから両チームへの激励の言葉があり、始球式は、入谷小学校5年生の菅野滉太さんが務めました。1回表、巨人の廣岡大志選手の先頭打者初球本塁打が飛び出すと、スタンドからは悲鳴とどよめきの声が上がりました。3回に両チーム1点ずつ取り、その後は塁を埋めるもあと1本が出ない展開に。6回裏、途中出場の岩見政暉選手が本塁打を打ち同点に追いつくと、会場はこの日1番の盛り上がりを見せました。それ以降は両チーム得点に繋がらず、試合は2対2で引き分けとなりました。試合終了後は、フィールドが開放され、子ども達がキャッチボールやベースランニングを行いました。3年ぶりの開催となりましたが、会場は大いに盛り上がりを見せ、来場した子ども達からは、「プロの試合を近くで見ることができて嬉しい。」や「迫力があってかっこよかった。」といった喜びの声があがりました。



会場にはスイッチや東北ゴールデンエンジェルらが駆け付けた



6回裏に同点本塁打を放つ岩見選手



バックネット裏席からの試合の様子



試合は2対2で引き分けとなりました



先発投手を務めた王選手



歌津総合支所内ではレプリカユニフォーム展が開かれた



試合終了後の解放されたフィールドでキャッチボールなどを行う子ども達



大勢の人が観戦するバックネット裏席